

このニュースは都レンジャーの活動や、自然の情報などを皆様へお伝えするものです。

キノコと森の深～い関係

秋といって思い浮かぶものはいろいろありますが、キノコもその一つでしょう。
キノコと森の深～い関係について、探ってみました。

キノコについて思い浮かべるのは…？



ベニテングタケ

キノコで思い浮かべるのはこんな形でしょう。

この部分を「子実体」といいます。子実体は胞子をつくる組織で、胞子をつくるある時期だけ出てきます。子実体はキノコこの本体ではありません。地中などに張り巡らされた「菌糸」が本体です。

キノコは菌糸の表面から酵素を出し、周囲の有機物などを分解して吸収し成長します。

キノコは大きく分けて木材腐朽菌と外生菌根菌があり、生活形態が大きく異なります。

もくざいふきゅうきん 木材腐朽菌

木材腐朽菌は木を枯らしたり分解をしたりする菌類です。

木が堅いのは、セルロースなどでできているからです。植物や動物はセルロースを分解することが困難ですが、木材腐朽菌は分解することができます。

木材腐朽菌がいるから、枯れ木が分解されて土に戻ります。もしいなかったら、山は枯れ木で埋もれてしまうでしょう。



ヌメリスギタケ



ツキヨタケ



ハナビラタケ

ハエが寄ってくるキノコ

■とても臭いキノコで、この臭いにハエが集まってきます。集まってきたハエに胞子を運んでもらいます。「三鈷」という仏具に似ているのが名前の由来です。



サンコタケ

これもキノコ？

■皮をむいたミカンのような形ですが、これもキノコの仲間。ツチグリといいます。



ツチグリ

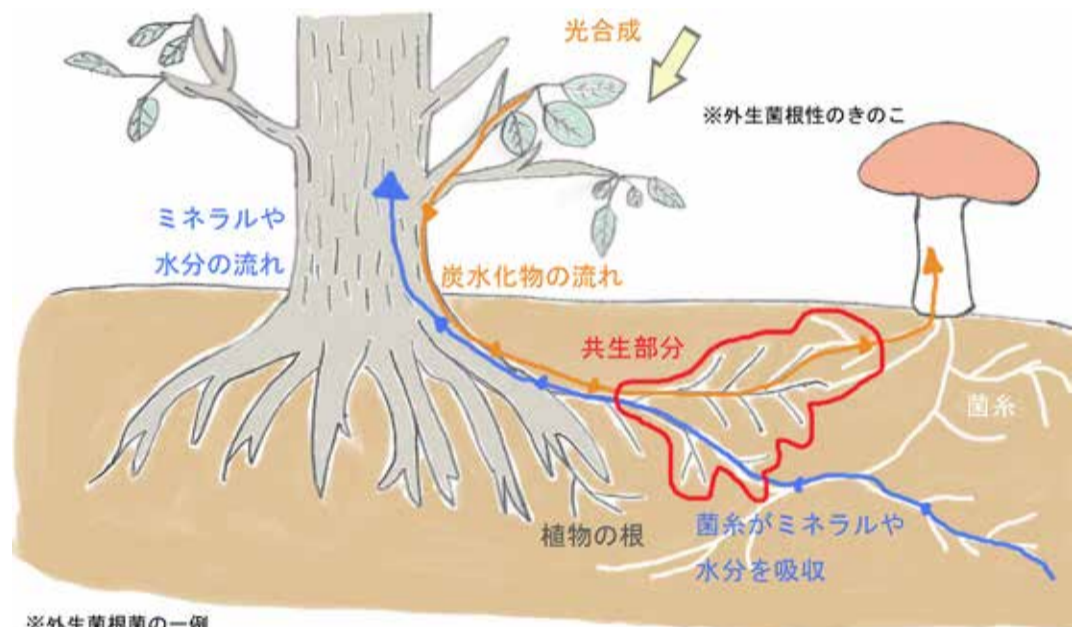
がいせいきんこんきん 外生菌根菌

植物と共生関係をむすんでいる菌類です。

多くの植物は、根が菌類の菌糸とつながっています。植物はつながった菌糸を通じて外生菌根菌が作ったミネラルを受け取り、その代わりに植物は光合成でつくった炭水化物をキノコに渡しています。お互いがいないと健全に成長できないのです。



タマゴタケ



※外生菌根菌の一例

もしキノコがいなくなったら…？

光合成のできる植物が森の原点だと思われがちですが、キノコに代表される菌類がいなければ植物も健康に成長できず、植物が育たなければ植物食の動物がいなくなり、植物食の動物がいなければその動物を食べる肉食性の動物もいなくなってしまいます。

キノコがなくなると森がなくなるかもしれませんね。
キノコを見る目が少し変わりましたか？

世界一大きな生き物！？

■大きな生き物というとゾウやクジラを思い浮かべますね。1998年にアメリカでオニナラタケというキノコの菌糸が8.9平方kmもの地面に広がっていることが分かりました。重さにすると600t、年齢は2,400歳！

菌糸全体をひとつの体と考えると、これが現在の地球上で知られている生き物として世界一の大きさとなります。

これはキノコじゃない

■よく間違われますが、これは植物の仲間ギンリョウソウ。葉緑素がなくなって光合成をしません。菌類に寄生する植物です。



ギンリョウソウ

キノコの森の中の大切な役割に思いをはせ、自然公園を楽しみましょう！